

福知山市の中心市街地活性化基本計画について

福知山市農林商工部商工振興課 参事 中見 幸喜

1 はじめに

福知山市は、京都府北西部、丹波山地の西縁部由良川流域に広がる福知山盆地を中心に、西は兵庫県と接する丹波、丹後、但馬により形成される「三たん地域」の中央部にある。

京都市及び神戸市から約 60km、大阪市からは約 70kmの距離に位置し、多くの国道や舞鶴若狭自動車道、JR 山陰本線、同福知山線、並びに、北近畿タンゴ鉄道宮福線が交わる北近畿の交通の結節点となっている。古代から出雲や丹後地域と畿内を結ぶ要衝地として、交通や文化面において重要な位置を占めていたことは、昭和 61 年広峯古墳群（古墳時代）から盤龍鏡が出土したことから伺え、天正 7 年（1579 年）には、織田信長の命で丹波を平定した明智光秀が福知山城を築き、関が原の合戦後、有馬豊氏が城主となり城下町が整備された。以来、明治 4 年の廃藩置県まで 300 年近い間城下町として栄え、今なおそのまち割りや町名が残されている。

近年は、北近畿の玄関口として JR 福知山駅の高架開業など福知山駅周辺整備事業の推進や恵まれた自然環境を活かしながら「北近畿をリードする中核都市」を標榜し、北近畿の産業・経済の拠点として発展してきた。



福知山城



まち割り：京街道

2 中心市街地の課題

これまで旧基本計画や TMO 構想に基づくハード面・ソフト面の様々な事業が一定の高い実施率で進められてきたが、事業間の連携不足や資金面・人材面等におけるコーディネート不足などもあり、結果的に民間レベルの

活動強化には繋がらなかった。

また、道路網の整備に伴う郊外部や周辺他都市への大規模集客施設の立地、核家族化や少子高齢化などの進展による生活様式の変化、さらには、消費者行動の多様性や活動エリアの拡大により急激に中心市街地の商圈は狭まっている。商店街の後継者難は、本市でも例外ではなく、商業者の高齢化や商売の副業化、空き店舗の増加が進んでおり、商業集積の著しい低下が、まちの魅力の喪失にもつながっている。

各種統計資料や市民アンケート等をもとに、まちの課題をあらためて次の 3 つに整理した。

I 交流人口の増

歴史的・文化的な地域資源を活かした“まちなか観光”の促進

II まちなか居住の促進

誰にとっても暮らしやすい生活環境づくり

III 商業活性化

都市基盤整備に伴う“新しい福知山の顔づくり”と個店の魅力アップ

加えて、街の賑わいを取り戻すには、商業者団体、地元住民、市民活動グループ、行政等が一体となって、共通の目的と方向性を確認し、お互い担うべき役割を着実に実行していくことが必要となる。そのため、それぞれの課題に即した官民協働のプロジェクト組織を立ち上げるとともに、各事業の進捗状況については、市民報告会等を通じて広く公開し、地域一体となったまちづくりに取り組むこととした。

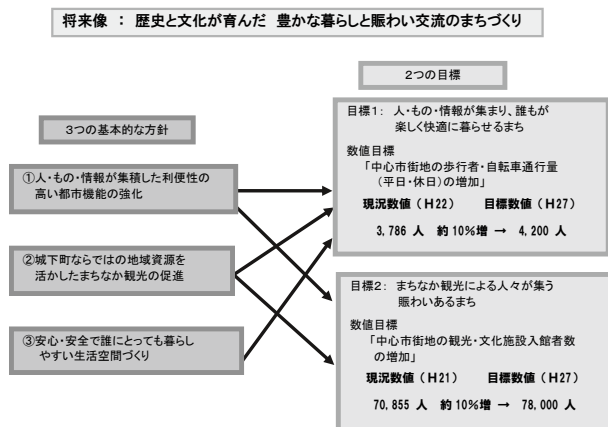
3 中心市街地の区域

都市機能の集積を促すため、都市計画法の用途地域として商業及び近隣商業地域に指定された地域のうち、広域からのアクセス拠点となる JR 福知山駅周辺から、旧城下町エリアに広がる市街地の範囲約 116ha を区域とした。

4 活性化の基本方針と目標

本市は、平成18年1月に近隣3町と合併を果たしたが、その結果、鬼伝説で有名な大江山や貴重な国内産となる丹波漆など、豊富な観光・文化資源に囲まれた街となった。こうした特筆される観光資源の中でも、中心市街地に存在し、本市を最も代表する地域資源が「福知山城」「城下町」であり、「ドッコイセ、ドッコイセ」とその築城時の掛け声に由来するとされる「福知山踊り」とともに、町並みや風情、伝統が今日まで引き継がれている。

宿泊施設や食事処、商業施設が揃う中心市街地を拠点として、周辺地域の自然環境や京都丹波の豊かな食材を使った料理、そして、地域文化に根ざした伝統工芸など、当地ならではの資源を活用した『着地型観光』に取り組むとともに、JR福知山駅付近連続立体交差事業の完成に伴う駅南北の一体的な新市街地の形成、そして、そこに住む誰もが暮らしやすい居住環境づくりを目指し、本計画におけるまちの将来像を『歴史と文化が育んだ豊かな暮らしと賑わい交流のまちづくり』と定め、次の3つの方針と2つの目標を掲げることとした。



本市が、京阪神地域と日本海側とを結ぶ交通の要衝としての「お立ち寄りポイント」としてだけでなく、街の魅力そのものを楽しむために訪れていただけるよう、まずは、日帰り圏内である北近畿地域約68万人の人々を対象に、新しく生まれ変わる“福知山”をアピールし、人が人を呼び込むようなまちづくり戦略を企図するものである。そうすることで、さらなる広がりを創出し、目指すべき将来像である「豊かな暮らしと賑わい交流のまちづくり」の道筋とするものである。

5 活性化に向けた主な事業

◆福知山城周辺賑わい創出施設整備事業

本市のシンボル『福知山城』に隣接する市民プール跡

地など、その周辺地域を整備し、誰もが立ち寄りたくなるような空間を創造することで、近隣商店街や中心市街地の資源をつなぐ市民の憩いの場としてはもちろんのこと、市外からも幅広い年齢の多様な人々が関心を寄せる新たな賑わいの創出と城下町の佇まいを残す中心市街地商店街の賑わい再生を図るものである。

・テナントミックス事業～飲食・物販7店舗



イメージ図

◆まちなか観光散策ルート整備

- ①街なみ環境整備事業（内記・広小路地区）
- ②内記一丁目線整備事業
- ③広小路商店街リニューアル事業
- ④ドッコイセ福知山踊り普及事業 など

福知山城から京街道へと通じる歩道橋を、周辺の景観に配慮したものに改築し、まちなかへの回遊を誘導する。また、城下町らしさが残る『まちなか観光散策ルート』上において、地元住民自らが策定する整備方針に基づき商店街の既設アーケードの撤去を行い、“御霊神社の門前町”として、また、“福知山踊りの舞台（メッカ）”としての町並みを統一するファサード整備や道路改良、さらには、紺屋町などの町名にも残る藍染め暖簾等を活用した景観形成を行う。



◆オープンミュージアム『町はまるごと博物館』まちなか観光推進事業

◆福知山鉄道館ポッドランドグレードアップ事業

城下町として栄えた町並みや文化、また個人所有の財産を「まちの宝」として磨き上げ、まちなか全体を「ミュージアム」に仕立てることで、来街者が、歴史や文化を楽しみながら町歩きができる環境を整える。

併せて「鉄道のまち」としてのPR施設になっているポッドランドをリニューアルするとともに、話題性のあるイベントを定期的に開催する。

- ・ガイド付きまち歩き「DISCOVER WEST ハイキング」
- ・Nゲージ模型のリニューアル、ミニSL乗車会ほか



京都府指定文化財 松村家住宅



ポッドランド Nゲージ模型

◆『市民交流プラザふくちやま』建設事業、市民会館・中央公民館改修事業

都市基盤整備事業の進捗に伴い大型商業施設等が進出する福知山駅周辺地区に、子どもから高齢者まで全ての人々が利用しやすい図書館と就業や生涯学習を支援する場などを併設した賑わい交流施設を建設する。これにより、さらにまちの魅力を高め、交流人口の増加を図り、中心市街地活性化を推し進める。

また、関連事業として、市役所に隣接する市民会館・中央公民館を改修し、中心市街地エリア外にある中央保健福祉センターを移設する。



市民会館・中央公民館

◆消防署跡地活用事業・集合住宅建設事業

平成24年度に移転が予定されている福知山消防署の跡地活用を図るため、多様化する居住者ニーズにも対応した誰にとっても住みやすい住環境の確保と周辺地域を含む良好な都市空間の形成を目的に、『まちなか居住の先導的的事业』として地域コミュニティにも配慮した集合住宅を建設する。



現福知山消防署

6 おわりに

平成19年1月に設立された本市の中心市街地活性化協議会は、京都府内で唯一となる法定協議会であり、これまで多くの市民、各種団体の皆様の参画を得て、盛り込むべき事業について協議を重ねていただいた。本計画は、去る3月25日に内閣総理大臣の認定を受けたところであるが、これからは、今まで以上に行政と市民、民間事業者等が連携を図り、スピード感を持ってそれぞれの事業を着実に推し進めていくことが求められる。

活性化協議会に設けられたプロジェクト会議は、まさにこれを成し遂げる組織体となるものであり、『認定』という号砲を合図に、人の動きが実感できるまちづくりを実現していきたい。

(なかみ こうき)